

圏域	包括	開催日	開催場所	実施内容	参加者 (職種別参加人数)	成果
1	社協 こもれび	令和5年12月14日 (木) 13:30～15:15	楠葉生涯学習 市民センター	【テーマ】 「若年者の認知症（高次脳機能障害）の方の居場所」 【内容】 ①実際の事例から、実践報告、そこから見えて来た現実と新たな課題について 講師：デイサービスごきげん家 日高辰磨施設長 ②グループワーク 若年者の認知症の方の居場所について、医療・介護・福祉・行政のメンバーで考える。	医師（1） 歯科医師（0） 薬剤師（7） 病院事務（1） 相談員（0） 病院看護師（0） ケアマネ（7） ヘルプ（3） 訪看（1） 通所（4） 福祉用具（0） 施設（2） 市役所（2） 社協（1） 大学職員（1） 包括（3） 計（33）	5年計画の中で「生きる逝きる」を考えていく。1年目は「『自立』に焦点をあて、自立の捉え方を多職種間で共有した。その中で感覚器障害のある高齢者（認知発症もある）の疑似事例で自立に向けた支援のあり方について考えた。2年目の本年度は「実際の事例」「現状」を踏まえ若年者の認知症と言われる方々の生活に焦点を当てる。その方々の思いに触れながら実際に支援している通所介護事業所の取り組みについて多職種で学んで行く。高齢化社会に向かい認知症の方が増えていく現状のなかで、認知症があっても活躍出来て、この町で暮らし続けるという方法を模索して行く研究会を目的とした。それぞれが我が事として意見交換を行い「居場所のありかた」を考える時間となった。
2	社協 ふれあい	令和5年2月16日 (木) 14:00～14:45	牧野生涯学習 市民センター	【テーマ】「在宅医療について」 【内容】 ①センチュリークリニック佐藤正博先生による、 【在宅医療について】の講義。 ②各職種より、在宅医療についての意見や情報提供を共有する。	医師（3） 歯科医師（1） 薬剤師（4） 病院（1） 病院看護師（2） ケアマネ（3） ヘルプ（2） 訪看（0） 通所（4） 福祉用具（1） 施設（2） 行政（4） 看護実習生（2） その他の医療機関（1） 包括職員（3） 計（33）	・コロナ禍で入院中も面会ができないという理由で、退院が早くなるケース、ガン治療で在宅療養を選ばれるケースが多くなり、医療と介護が連携が求められることが多くなった。その中で信頼関係の重要性、顔の見える関係性の重要性を再確認できた。 ・ACPの大切さ、将来を見据え、人生の最後を自宅で迎える時代への認識を確認できた。
3	聖徳園	令和5年10月14日 (土) 13:30～16:00	牧野生涯学習 市民センター	【テーマ】 「認知症の事をもっと知りたい！～医療・介護の専門家に聞いてみよう～（地域向けイベント）」 【内容】 「教えて！認知症の医療」公開座談会 【登壇者】 たつみ医院 巽医師 関西記念病院 奥川医師 玉井歯科医院 玉井歯科医師 いざき薬局 井崎薬剤師 相談会（ケアマネ、ヘルプ、訪看、施設） サロン（認知症456を実施）	医師（2） 歯科医師（1） 薬剤師（3） 相談員（1） ケアマネ（8） ヘルプ（6） 訪看（4） 通所（3） 福祉用具（3） 市役所（1） 包括（7） 計（39）	公開座談会の参加状況から地域住民の認知症に対する関心の高さが伺えた。天候やタイムスケジュールの影響からか、相談ブースや展示、サロンへの参加が少なかったり、座談会の音声トラブル等もあったが、事務局会議や事業所間で打ち合わせを繰り返し、当日皆で協力して開催したイベントは認知症の啓発と多職種の関係構築に繋がった。
4	安心苑					
5	サール・ナート	令和5年10月19日 (木) 14:00～15:30	たまゆらイベント ホール	【テーマ】 「もしもの話をしよう ～わたしにとってのACP～」 【内容】 ①講義「ACPについて」 市立ひらかた病院 緩和ケア認定看護師：熊谷晴子 ②もしバナゲーム実施後グループワーク	医師（1） 歯科医師（1） 薬剤師（5） 相談員（2） 病院看護師（1） ケアマネ（6） 訪看（3） 福祉用具（2） 施設（1） 配食（2） 府営・UR管理（2） 市役所（1） 包括（5） その他（3） 計（35）	講演では、ACPを進める背景やメリットの説明があり、難しく考えず考え方は変化して行くのだと気付けたことで、参加者にはACPをより身近に考えることができるようになり、今後の仕事に活かせるとの反応もあった。 「もしバナゲーム」のツールを使用し縁起でもない言いにくいことをグループで話せたことで、人生観や死生観が多様であることを再確認し、地域の関係者で一層の連携が図れる関係性が築けた。 昨年度から看取りやACPのテーマを繋げてきて、より一層具体的に理解を深められ、さらに来年度に向けての方向性も見えてきた。
6	松徳会	令和5年3月16日 (木) 14:00～15:30	オンライン	【テーマ】 「多職種で考えるACP（人生会議）」 【内容】 ①講座「多職種で考えるACP（人生会議）」 講師：枚方市医師会医療介護連携支援コーディネーター 看護師 神山 欣子 氏 ②グループワーク	医師（2） 歯科医師（5） 薬剤師（5） 相談員（2） ケアマネ（5） 訪看（2） 病院看護師（1） 施設（2） 市役所（1） 包括（3） 計（28）	ACPの基礎から学べる内容だったため、大変わかりやすく身近に感じられるものであり、講座終了時のアンケートでも「満足」「大変満足」で92％という感想だった。グループワークでは、仕事で、身近でACPに関わった経験や本日の講座の感想を共有し、職種を超えて重要性を痛感できた。我が事としても当然であるが、「高齢者の近くにいる支援者としてどのように関わっていけばよいのかわからない」という意見があり、その事へも助言いただいたことで、少しずつではあるがACPを意識しながら高齢者の方々と関わり「話を聞いてもらいたい人」になることから始まると理解できた。引き続き少しずつでもACPの理解が広がり、深まるように取り組むをしていく必要がある。
		令和5年11月30日 (木) (会場) 14:00～15:30 (オンライン) 18:30～19:30	大阪精神医療センター	【テーマ】「認知症」 【内容】 ①講義：「高齢者の困った行動と精神医療からの視点」 講師：大阪精神医療センター精神科医師入来晃久先生 ②グループワーク ③動画再生（認知症初期集中支援チーム）	医師（2） 歯科医師（4） 薬剤師（6） 相談員（3） ケアマネ（13） 訪看（1） 施設（3） 市役所（1） 包括（3） その他（2） オンライン（9） 計（47）	今後の大きな課題となるであろう「認知症」をテーマに上げ、5か年で取り組んでいく予定にしており、今回はその1回目という事と久しぶりの会場開催という事もあって、まずは一人一人が発言すること、更にそれぞれの立場で体験を共有することから始めた。立場が違えば迷いや悩みが違ったり、共感できたり、初期症状の発見なども職種によって異なり学びも多かった。今後何かしらの取り組みの必要性を共通認識として強く感じる事ができものの、本人の自尊心の問題もあり改めて課題も明確になった。日々高齢者対応をしていく中で、対応の難しい高齢者とのように接したらよいのか悩む参加者も多く、大阪精神医療センターの医師の講座は、具体的な病態と対応策の紹介があり大変好評だった。
7	美郷会	令和5年10月20日 (金) 15:00～16:30	ラ・ボール ひらかた大研 修室	【テーマ】 「ポストコロナの多職種連携」 【内容】 ①登壇者によるリレートーク ②グループワーク	医師（1） 歯科医師（1） 薬剤師（5） 相談員（2） ケアマネ（10） ヘルプ（2） 訪看（4） 通所（3） 施設（4） 福祉用具（4） 民生委員（5） 市役所（2） 包括（5） 計（48）	「ポストコロナの多職種連携」をテーマに登壇者（訪問看護・居宅・通所リハ・薬局・訪問介護）を事務局員から選出し10分程度のリレートークを行い、その後、①コロナに対してどのように工夫し対応してきたか②5類になって変わった事③これから先の連携について思う事・考える事についてグループワークを行った。特に③に趣をあて今後の災害や未曾有の状況に備えて何を学び、残していくのか等、コロナのマイナスイメージではなく得たものに焦点をあてて話あった。アンケートでは今後、コロナ以外の感染症対応に意見や考え方を沢山取り入れる事ができた。これから先も情報共有が必要である。普段の関わりで対策が活かされる。一人の利用者を通して見えない所での他職種との関わりがあることが明確に分かった。等意見をえた。久しぶりの対面での研究会となり本会の主旨を再確認する事ができたと感じる。
8	みどり					

圏域	包括	開催日	開催場所	実施内容	参加者 (職種別参加人数)	成果
9	アイリス	令和5年1月19日 (木) 14:00～15:45	香里ヶ丘図書館 多目的室	【テーマ】 「難病を患う高齢者に対する支援」 ～病気が進行しても社会参加のできるまちづくりを目指して～ 【内容】 ①事例紹介 ②当事者からのお話し ③パネルディスカッション ④各専門職・関係機関からの意見	医師 (2) 歯科医師 (4) 薬剤師 (2) 相談員 (1) ケアマネ (10) ヘルプ (1) 訪看 (2) 通所 (5) 施設 (1) 民生委員 (3) 府営・UR管理 (5) 市役所 (1) 保健所 (1) 包括 (3) その他 (4) 計 現地 (45) オンライン (0)	今回は難病を患い、病気が進行したとしても生きがいを持って住み慣れた地域で生活ができるようなまちづくりを目指す為に、各職種の関り方や情報を共有する機会となった。 当事者やその家族にも参加いただき生の声を聴くことで、本人・家族の意思決定をどう促していくのか？専門職として情報提供することや気持ちに寄り添いながら支援していくことの難しさを共有することができた。 保健所職員にも参加いただき、枚方市の現状や保健所の関わりについても共有できた。 URからは包括の関わりであれば、作品の展示等、集会所等場所の提供は可能と情報提供いただいた。 「住み慣れた地域で暮らす」意義について改めて考え、専門職や関係各所、地域が連携していくことの重要性を再認識できた。
		令和5年12月21日 (木) 14:00～15:45	香里ヶ丘図書館 多目的室	【テーマ】 「地域の支援の輪を広げよう!!」 ～認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくために～ 【内容】 ①グループワーク→「認知症456」 ②事例紹介 ③各専門職・関係機関からの意見	医師 (3) 歯科医師 (4) 薬剤師 (4) 相談員 (3) ケアマネ (8) ヘルプ (1) 訪看 (2) 通所 (5) 施設 (4) 民生委員 (3) 府営・UR管理 (5) 市役所 (2) 保健所 (1) 包括 (4) その他 (2) 現地 (51) 計 (51) オンライン (0)	アンケートの結果からも“地域との繋がりを大事にしたい”“多職種との連携を図りたい”といった声もあり、多職種連携研究会を続けて実施してきた成果が出ていると思われる。「認知症456」・事例を通じて認知症への理解、枚方市の認知症施策等、様々な取り組みを知ってもらうとともに具体的な連携、関わり方を共有することで、各々が日々の連携に繋げていくきっかけになった。「認知症456」では出席者のアイズレイクに効果的との意見がある一方でもっとグループ内でコミュニケーションの時間を設けてほしいかったとの意見があった。
10	高齢者生協	令和5年3月15日 (水) 14:00～15:30	南部生涯学習市民センター	【テーマ】「ACPとは」 【内容】 ①講演 在宅医療・介護支援コーディネーター神山氏より ②グループワーク	薬局 (2) ケアマネ (12) 訪問看護 (1) デイサービス (1) グループホーム (1) 計 (17)	ACPについて学習し、日頃利用者様との関わり中でどのような役割りをもてるのか話し合った。日頃、支援する中で終末期の人の支援に対して迷ったりどのように接していけばいいのかなど活発な意見交換が出来た。ACPの話を変えて聞いて、今後の支援に生かしていけるといった人が多かった。また、人生会議やエンディングノートの活用、普及啓発も進めていきたいとの意見も聞かれ、ACPの理解も深められた。
11	パナソニック	令和5年3月14日 (火) 14:00～15:30	オンライン	【テーマ】 「介護者家族の会」開催報告と今後の活動 【内容】 ①圏域で介護者家族の会設立の発表から1年、開催の報告と見えた課題から今後の活動 ②それぞれの立場から意見や情報の交換をする。	医師 (1) 歯科医師 (3) 薬剤師 (2) 相談員 (1) ケアマネ (7) ヘルプ (0) 訪看 (4) 通所 (2) 福祉用具 (0) 施設 (2) 包括 (3) 計 (25)	利用者や患者家族の悩み、困りごと等について、業務の中で目の当たりにする体験や経験があり、多職種での支援の必要性を実感しているという参加者の意見が多かった。 多職種連携研究会事務局協力のもと開催した「介護者家族の会」の報告や状況等を共有し、その出席者の多くが、今後も様々な形で協力していきたいという感想を持ってくれ、手ごたえを感じた。
12	大潤会	令和5年3月24日 (金) 14:00～15:30	津田生涯学習市民センター4階ホール	【テーマ】 「高齢者が住み慣れた地域で生活する為に」 【内容】 ①個人ワーク コロナ感染症対応を振り返り、困ったこと、多職種で連携が必要な場面や情報、意見交換したい内容 ②グループワーク 個人ワークをもとに意見交換	薬剤師 (4) 病院看護師 (1) ケアマネ (9) 訪看 (3) 通所 (2) 施設 (3) 市役所 (1) 包括 (3) その他 (1) 計 (27)	医師の参加は無かったが、薬剤師の参加があり、グループワークでお薬手帳の活用方法等の情報提供があった。有事の際の情報共有について、正しいリアルな情報を求めている事がわかり、連携ツールを共有できたら、足りない物品の予備を回して貰う事や、営業している介護保険事業所情報が確認ができるようにしたい等意見があり、今後情報共有のツールの検討をしていく。
13	東香会	令和5年3月13日 (月) 14:00～15:30	津田生涯学習市民センター4階ホール	【テーマ】 「つながろう～災害に備えた連携の輪」 【内容】 ①おかもと訪問看護ステーション大林氏より災害に向けての講義 ②各圏域にて5グループに分かれ、各事業所間で災害に向けての取り組みなど情報交換や今後事業所間での連携方法など意見交換をして頂く。	薬剤師 (4) 相談員 (3) ケアマネ (8) ヘルプ (6) 訪看 (1) 通所 (11) 福祉用具 (0) 施設 (0) 民生委員 (0) コミュニティ (0) 校区福祉 (0) 配食 (0) 府営・UR管理 (0) 市役所 (1) 社協 (0) 包括 (2) 計 (35)	今回、災害に備えて大きな課題となったが、意識づけになったと思われる。事業所は校区ごとで分け、マップを活用しながら、近隣事業所の顔合わせなどでき今後の連携へとつながると思われる。今回の研修により答えは出ないが、昨今のBCPへの取り組みに向けて今一度検討ができ、まずは自事業所で何ができるのか、今後事業間での協力体制を取るものの必要性を話し合える場になったと思われる。また参加者からは地域の災害などについて学ぶことができた。各事業所の連携がとりにくい等今後の課題も抽出できた。次回はもう一歩進んだ話や具体策等検討ができると思われる。